

令和3年度第1回森町地域公共交通会議 議事録

日 時 令和3年6月30日(水) 13:30～15:00

場 所 森町公民館 1階大会議室

出席者 別添委員会名簿のとおり

概 要 以下のとおり

1. 開 会

2. 会長挨拶

- ・ 長瀬会長より挨拶。

※森町地域公共交通会議設置要綱（以下、要綱という。）第5条第2項により、会長は森町副町長が務める。

3. 議 事

① 令和3年度事業スケジュールについて

- ・ 別途資料により説明

- ・ 質疑応答なし

② 関係者ヒアリング結果について

- ・ 別途資料により説明

- ・ 質疑応答なし

③ 森町地域公共交通計画における施策（案）及び目標値（案）について

- ・ 別途資料により説明

～質疑応答～

【為国先生】 方向性2「町民の広域的な移動を確保する町内交通と広域交通の連携」

について、広域移動に関するＪＲ及び地域間幹線系統の位置付けが抜けているため、明記すると良い。

また、都市間バスについても同様の位置付けとして整理すると良い。

上記の観点から抜けていると、法の改正への対応として、補助を受けられない可能性がある。

渡島総合振興局で今後、作成が見込まれる広域計画との連動を前提に、森町の計画にも上記の観点は記載してほしい。

【経亀委員】 地域間幹線系統及びフィーダー系統については、計画との連携が重要視されるため、町として、地域間幹線系統の維持の方向性を示していただくことで継続的な補助に繋がることを踏まえ、為国先生のご指摘の反映を検討することが必要である。

【事務局】 ご意見いただいた件については、第２回でお示しさせていただく資料に反映をしていきたい。

(事務局の対応について、委員了承)

【佐々木委員】 広域交通とは、具体的にどのような内容を指すのか教えていただきたい。

【為国先生】 国道を運行している地域間幹線系統には、国補助が入っており、その補助を継続的にいただくためには、計画に地域間幹線系統の位置付け及び具体的な施策を組み込む必要がある。

また、ＪＲの位置づけについても計画に整理しておくことで、今後の路線のあり方を整理が可能となる。

方向性３「町民とともに公共交通を考える機会の創出」において、利用促進策として整理されている内容が薄いため、もう少し具体的に記載した方が良く、例えば、バス乗り方教室の実施（高齢者や子どもたち）などが考えられる。

【伊藤委員】 社会福祉協議会で実施している小地域ネットワークという事業は、高齢者・独居世帯が対象としており、これらの対象者を中心に生活の足の確保に向けた対策を検討してほしい。

現状で整理されている施策は、対象者が広く、明確ではないように感じるため、町内会の方々に身近に感じていただける公共交通システムを構築してほしい。

【佐々木委員】 公共交通に対して、きめ細やかなサービスを求めるのは限界がある考えられるため、新たな公共交通を構築するよりも、既存の交通手段に財政的支援を行った方が良いのではないか。

【事務局】 事務局としても新たな公共交通を検討していく上では、町内会や現在、困っている人に直接的な意見聴取を行いながら、一緒に進めていきたいと考えている。

一方で、町民ニーズに全て対応することは、難しいと考えているため、公共交通として、どこまで対応できるかは、地域と話しながら決めたい。

また、既存の交通手段への財政的支援については、施策⑦の「外出支援サービス事業の実施」で対応していくことを想定している。

【経亀委員】 目標値（案）における「生活移動のための支援事業費用」について、どのような費目を想定しているか。

また、「町内の交通資源の活用」を目標値として位置づけると森町らしい目標値として整理できるのではないか。

【事務局】 目標値（案）には、昨年度の交通会議内で、お示しした現況整理資料における、森町として要している経費一覧の内容を想定している。

町内を運行している交通手段の活用については、関係部署・機関と連携しながら、活用可能性について、検討を進めていきたい。

【深川委員】 函館市方面に出かけることが多く、道中の国道改良工事が複数年で進められているが、どの程度の期間で改良工事が終わるのか、教えていただけないか。

【武田委員】 国道5号の大沼付近において付加車線設置などの交通安全対策を進めているところであるが事業が長期間に渡っておりご迷惑をおかけしている。

事業の竣工時期は現時点では具体的にお示しできないが、地域からの意見などを受け、優先的に整備を進めている状況である。

【武田委員】 目標値（案）について、現況の数値もしくは過年度の年度ごとの数値などは既に把握されているのか。

【経亀委員】 タクシー利用者数については、支局の方で把握しているほか、バス利用者数もバス会社の方で把握されている。

【事務局】 把握手法については、一覧表に記載している内容で想定している。

また、目標値（案）について、本日、ご承認をいただければ、数値の収集・積み上げを行っていくことを想定しており、現状、概ね数値は収集済みである。

【高山委員】 砂原地区の営業所は赤字であり、人件費の回収も出来ていない状況のため、町から補助などがあれば助かる。

【事務局】 貴重な意見として承る。

【千葉委員】 函館バスとして、砂原線の維持を継続していきたいが、利用者数が著しく減少しているほか、会社としても路線規模を縮小する傾向となっている。このような状況下で、どこまで森町の公共交通に協力できるか、会社としても検討を継続していきたい。

【事務局】 函館バスには、町内の公共交通を担っていただいていると思っている。今後も路線の維持に向けて、継続的に情報交換をさせていただきたい。

④ 「森町公共交通シンポジウム・ワークショップ」開催概要（案）について

- ・ 別途資料により説明

～質疑応答～

【佐々木委員】 昨年度に実施した地域意見交換会は参加者数が少なかったため、なるべく参加者数が増えるように周知をしてほしい。

【事務局】 意見交換会については、時期・天候の関係もあり、参加者数は少なかったように感じている。

事務局からの周知だけではなく、委員さんからの周知もお願いしたい。

⑤ NPO法人 まちづくり支援センター 代表理事 為国 孝敏 氏 総括

- ・ 地域との対話を行う機会がコロナの影響で少なくせざるを得なかったが、今後も継続的に地域とのキャッチボールはやりたいと考えているため、民生委員の集まりなどにお邪魔させていただくことをお願いできればと考えている。
- ・ シンポジウム・ワークショップの時間配分については検討し直していきたい。
- ・ 地域の意見を聞いた際に、個人の移動を言われることがあるが、全ては公共交通で担うことはできない、ということをご共有していきたい。
- ・ 計画の方向性についても、今後も継続的に事務局に寄せてほしい。

4. その他

【経亀委員】 ダウンサイジング等係る支援策について、情報提供。

5. 閉会